

小学校道徳科における発達障害児への特別な指導内容

—「障害のある子供の教育支援の手引」と道徳科の内容項目との関連—

青木利樹（東京学芸大学教職大学院）・奥住秀之（東京学芸大学）・大井雄平

要旨：2021年に「教育支援資料」が改訂され、「障害のある子供の教育支援の手引」（「手引」）が発表された。本報告では、「手引」における学習障害等の発達障害のある子供に対する特別な指導内容に記述されている障害の特性及び指導内容と、小学校学習指導要領（平成29年告示）に記述されている「特別の教科 道徳」（道徳科）で扱う内容の項目（内容項目）との関連について検討した。その結果、学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害のいずれの障害においても道徳科の内容項目との関わりが認められた。「個性の伸長」等の自分自身に関する内容項目や「親切、思いやり」等の人との関わりに関する内容項目、「規則の尊重」等の集団や社会との関わりに関する内容項目で「手引」に示された特別な指導内容と関わりが見られた。発達障害児にとって道徳科は障害特性に関わる重要な教科であるため、指導内容や指導方法を工夫しながら授業を展開する必要性が推察された。

キーワード：障害のある子供の教育支援の手引 発達障害 小学校 道徳科

1. はじめに

特別支援教育の開始から10年以上経過し、学習障害（以下、LD）等の知的な遅れのない発達障害児が通常の学級に約6.5%程度在籍するとされている（文部科学省，2012）。そのような現状を受け、2017年の学習指導要領の改訂において、小学校学習指導要領総則に「障害のある児童などへの指導」の記述がなされ、「障害のある児童など」には、LD、注意欠陥多動性障害（以下、ADHD）、自閉症スペクトラム障害（以下、ASD）などのほか学習面又は行動面において困難のある児童で発達障害の可能性のある者が含まれることが明記された。さらに、小学校学習指導要領の各教科にも「障害のある児童など」についての記述がなされ、その解説では各教科の指導上で考えられる困難と指導方法の工夫の具体例が記述された（文部科学省，2017；文部科学省，2018a）。

2021年6月に文部科学省は「障害のある子供の教育支援の手引」（以下、「手引」）を発表した。これは2013年に文部科学省が発表した「教育支援資料」の内容について、障害のある子供の就学先となる学校や学びの場の適切な選択に資するよう改訂されたものである。「手引」では、障害のある子供の「教育的ニーズ」を整理するための考え方や就学先の学校や学びの場を判断する際に重視すべき事項等の記載を充実するなど、障害のある子供やその保護者、市区町村教育委員会を始め、多様な関係者が多角的、客観的に参画しながら必要な支援を行う際の基本的な考え方が記載されている（文部科学省，2021）。

ところで、小学校の教育課程全体に目を向ければ、2018年度から「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）が完全実施された。道徳科は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を目標とし、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の要とされている。

道徳科の改訂に関する1つの視点として、発達の段階を踏まえた体系的な内容になったと
いうことがある。その具現化に向けて、構成やねらいを分かりやすくするために、道徳科
で扱う内容の項目（以下、内容項目）がキーワードで示された（文部科学省，2018b）。

道徳科においても、国語科等他の教科同様、発達障害等の教育的ニーズ・困難に応じた
指導は必要とされており（文部科学省，2018b）、道徳を教科化するにあたり行われた
「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」において、LD 等の発達障害児の
具体的な指導上の困難と指導方法の工夫の例について示された（文部科学省，2016）。

道徳科と発達障害児の関連についての先行研究を見れば、ASD 児を対象とした実践や
通常の学級で行われている支援の実態調査など幅広く行われている（吉田・友永・高橋・
石川・鈴木，2020；青木・田中・奥住，2021）。また、青木・田中・奥住・大井（2020）
は、「教育支援資料」に記述されている LD 等発達障害児の内容と小学校学習指導要領に
記述されている道徳科の内容項目の関連についてまとめている。しかし、新たに「教育支
援資料」が改訂された「手引」と道徳科の内容項目について整理した研究は見られない。

「手引」と「内容項目」を関連付けることは、道徳科の授業実践において、発達障害児が
道徳科の目標やねらいとする内容項目に迫るうえでの一助となろう。

本報告では、「手引」における LD、ADHD、ASD のある子供に対する特別な指導内容
に記述されている障害の特性及び指導内容と、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）に
記述されている道徳科の内容項目との関連について検討することを目的とする。またその
際、青木ら（2020）が行った「教育支援資料」と内容項目の関連の調査結果と比較検討
を行う。

2. 方法

「手引」の「学習障害のある子供に対する特別な指導内容」、「注意欠陥多動性障害のある
子供に対する特別な指導内容」、「自閉症のある子供に対する特別な指導内容」に記述さ
れている LD 児、ADHD 児、ASD 児の特性及び指導内容のうち、小学校学習指導要領
（平成 29 年告示）「特別の教科 道徳」の内容項目と類似した表現がなされたり、関連が
考えられたりするものを本稿第一筆者が整理した。なお、調査内容の整理に当たっては、
大学教員 1 名、小学校通常の学級担任経験者 1 名により、客観的な視点でなされているこ
との確認を行った。道徳科の内容項目については、「A 主として自分自身に関すること」、
「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関するこ
と」、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の 4 つの視点から整
理されている。小学校では、A が「善悪の判断、自律、自由と責任」、「正直、誠実」など
6 項目、B が「親切・思いやり」、「感謝」など 5 項目、C が「規則の尊重」、「公正、公平、
社会主義」など 7 項目、D が「生命の尊さ」、「自然愛護」など 4 項目の全 22 項目から構
成されている。LD 児等の特性と指導内容については、原則として「手引」の引用とし、
一部、内容に支障がない程度に筆者が文言を改めた。

3. 結果と考察

3.1. LD 児と内容項目の関連

表 1 は、「手引」の「学習障害のある子供に対する特別な指導内容」に記述されている LD 児の特性及び指導内容を道徳科の内容項目と関連させたものである。

LD 児の特性で道徳科の内容項目と関わるものは、「A 主として自分自身に関すること」に 2 つ、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」に 1 つあり、「B 主として人との関わりに関すること」、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」では認められない。

「A 主として自分自身に関すること」については、「個性の伸長」、「希望と勇気、努力と強い意志」で LD 児の特性と関わりがある。「個性の伸長」とは、自分の特徴を知り、短所を改め長所を伸ばすことに関する内容項目であり、「希望と勇気、努力と強い意志」は、目標をもってくじけずに努力し、自分を向上させることに関する内容項目である。「個性の伸長」と関わることとしては、学習がうまくいかないことから、他者と比較し、自己評価を低下させてしまうと書かれている。また、「希望と勇気、努力と強い意志」と関わることとしては、自己評価の低下から、意欲が低下し、情緒が不安定になることが記載されている。それらの特性の指導内容として、心理的な安定を担保しながら、安心できる環境で自己の特性に気付き、認めていくこと、やり遂げた経験や成功経験を積むような指導が挙げられている。

「C 主として集団や社会との関わりに関すること」については、「よりよい学校生活、集団生活の充実」で LD 児の特性と関わりが見られる。「よりよい学校生活、集団生活の充実」は、学級や学校の生活をよりよいものにしようとすることや集団生活の充実に努め

表 1 LD 児の特性と特別な指導内容

内容項目	特性	特別な指導内容
【A 主として自分自身に関すること】		
善悪の判断、 自律、自由と責任 正直、誠実 節度、節制		
個性の伸長	自己評価を低下させてしまう	心理的な安定を担保し、安心した環境の中で、自分の特性に気付き、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにする
希望と勇気、 努力と強い意志	自己評価が下がったり、意欲が低下したり 情緒が不安定になったりする	一つでもやり遂げた経験や成功した経験を積むこと、そうした本人の努力をしっかりと認めることで自信を持たせたり、やり方を工夫すれば自分もやり遂げることができるということに気付くよう促したりする
真理の探究		
【B 主として人との関わりに関すること】		
親切、思いやり 感謝 礼儀 友情、信頼 相互理解、寛容		
【C 主として集団や社会との関わりに関すること】		
規則の尊重 公正、公平、 社会主義 勤労、公共の精神 家族愛、 家庭生活の充実		
よりよい学校生活、 集団生活の充実	集団に積極的に参加しにくい	日常的によく使われる友達同士の言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方など、あらかじめ少人数の集団の中で学習する
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度 国際理解、国際親善		
【D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること】		
生命の尊さ 自然愛護 感動、畏敬の念 よりよく生きる喜び		

ることに関する内容項目である。LD 児の特性として、言葉の意味理解の困難さや間違いなどから友達との会話の背景や経過の類推が難しく、集団に積極的に参加することが難しいことが記述されており、その指導内容として、少人数の集団の中で事前に学習することが挙げられる。

3.2. ADHD 児と内容項目の関連

表 2 は、「手引」の「注意欠陥多動性障害のある子供に対する特別な指導内容」に記述されている ADHD 児の特性及び指導内容を道徳科の内容項目と関連させたものである。

ADHD 児の特性で道徳科の内容項目と関わるものは、「A 主として自分自身に関すること」で 2 つ、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」でそれぞれ 1 つあり、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」では認められない。

「A 主として自分自身に関すること」については、「節度、節制」と「個性の伸長」で ADHD 児の特性と関わりがある。「節度、節制」は、基本的な生活習慣を身に付けること、節度をもって節制を心掛けた生活を送ることに関する内容項目である。「節度、節制」に関わることとしては、整理・整頓などの習慣が十分身につけていないかたりすることが記述されており、その指導内容として、生活上の困難さの要因を明らかにした上で、日課に即した日常生活の中で指導することが挙げられている。また、「個性の伸長」に関わることとして、自分の長所や短所、得手不得手を客観的に認識が難しかったり、他者との違いから自分を否定的に捉え自尊感情を低下したりすることが記述されている。その指導内容として、指導形態を工夫し、対人関係に関する技能を習得しながら、自分の特性に気づき、認めていきながら障害を受容していくことが挙げられている。

「B 主として人との関わりに関すること」については、「親切、思いやり」で ADHD 児の特性と関わりがある。「親切、思いやり」は、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすることに関する内容項目である。ADHD 児の特性として、因果関係や時間的経緯から行動を調整したり、振り返ったりすることが難しく、思ったことをそのまま口にして相手を不快させるような言動を繰り返してしまうということが記述されている。その指導内容として、ロールプレイやゲームなどで相手とのやり取りや感情や状況に合った適切な言葉を使用できるようにしていくことが挙げられている。

「C 主として集団や社会との関わりに関すること」については、「規則の尊重」で ADHD 児の特性と関わりがある。「規則の尊重」とは、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解しそれらを守ることにに関する内容項目である。ADHD 児の特性として、ルールを十分に理解していても、勝ちたい気持ちからルールを守ることができなかつたりすることが記述されている。その指導内容として、ロールプレイなどで勝った時や負けた時の適切な行動を指導していくことが記述されている。

表2 ADHD児の特性と特別な指導内容

内容項目	特性	特別な指導内容
【A主として自分自身に関すること】		
善悪の判断、 自律、自由と責任 正直、誠実		
節度、節制	整理・整頓などの習慣が十分身につけていなかったりする	生活上の困難さの要因を明らかにした上で、日課に即した日常生活の中で指導する
個性の伸長	自分の長所や短所、得手不得手を客観的に認識することが難しかったり、他者との違いから自分を否定的に捉え自尊心の低下が生じてしまったりする	対人関係に関する技能を習得する中で、自分の特性に気付き、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにする
希望と勇気、 努力と強い意志 真理の探究		
【B主として人との関わりに関すること】		
親切、思いやり	思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような言動を繰り返してしまう	ロールプレイなどにより、相手の話を受けてやり取りをする経験を重ねたり、ゲームなどを通して適切な言葉を繰り返し使用できるようにしたりして、感情の理解や状況に応じた言葉のやりとりの指導を工夫する
感謝 礼儀 友情、信頼 相互理解、寛容		
【C主として集団や社会との関わりに関すること】		
規則の尊重	ルールを十分に理解していても勝ちたい気持ちからルールを守ることができなったりする	ロールプレイなどにより、勝った時や負けた時の適切な行動を具体的に指導したりする
公正、公平、 社会主義 勤労、公共の精神 家族愛、 家庭生活の充実 よりよい学校生活、 集団生活の充実 伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度 国際理解、国際親善		
【D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること】		
生命の尊さ 自然愛護 感動、畏敬の念 よりよく生きる喜び		

3.3. ASD 児と内容項目の関連

表3は、「手引」の「自閉症のある子供に対する特別な指導内容」に記述されているASD児の特性及び指導内容を道徳科の内容項目と関連させたものである。

ASD児の特性で道徳科の内容項目と関わるものは、「A主として自分自身に関すること」、「B主として人との関わりに関すること」でそれぞれ2つあり、「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」では認められない。

「A主として自分自身に関すること」については、「節度、節制」と「個性の伸長」でASD児の特性と関わりがある。「節度、節制」に関わる特性として、整髪や着衣の乱れを直すなど身だしなみを整えることに関心がないことが記述されており、その指導内容として、保護者と学校が連携して、無理のない程度の課題から設定していくことが挙げられている。また、「個性の伸長」に関わる特性として、大きな音がしたり、予定通りに物事が進まなかったりすると、情緒が不安定になることが記述されており、その指導内容として、自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるようにすることが挙げられている。

「B主として人との関わりに関すること」については、「親切、思いやり」と「相互理解・寛容」でASD児の特性と関わりがある。「相互理解・寛容」とは、広がりや深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図ることに関する内容項目である。「親切・思いやり」と関わる特性として、行動や表情に表れている相手の真

意の読み取りを間違えることが記述されており、その指導内容として、生活上の様々な場面を想定し、そこで相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどを推測することが挙げられている。また、「相互理解・寛容」に関わる特性として、嬉しい気持ちや悲しい気持ちを伝えにくいことが記述されており、その指導内容として、感情を表した絵やシンボルマーク等を用いて、自分や他人の感情を視覚的に理解したり、他者と気持ちを共有したりすることが挙げられている。

表3 ASD児の特性と特別な指導内容

内容項目	特性	特別な指導内容
【A主として自分自身に関すること】		
善悪の判断、 自律、自由と責任 正直、誠実		
節度、節制	整髪や着衣の乱れを直すなど身だしなみを整えることに関心が向かない	保護者と学校が連携して、無理のない程度の課題から設定していく
個性の伸長	大きな音がしたり、予定通りに物事が進まなかったりすると、情緒が不安定になることがある	自らの刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるように指導する
希望と勇氣、 努力と強い意志 真理の探究		
【B主として人との関わりに関すること】		
親切、思いやり	言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合や、言葉を字義通りに受け止めてしまう場合があるため、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある	生活上の様々な場面を想定し、そこで相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けることができるようにする
感謝 礼儀 友情、信頼		
相互理解、寛容	嬉しい気持ちや悲しい気持ちを伝えにくい	感情を表した絵やシンボルマーク等を用いながら、自分や、他者の気持ちを視覚的に理解したり、他者と気持ちの共有を図ったりする
【C主として集団や社会との関わりに関すること】		
規則の尊重 公正、公平、 社会主義 勤労、公共の精神 家族愛、 家庭生活の充実 よりよい学校生活、 集団生活の充実 伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度 国際理解、国際親善		
【D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること】		
生命の尊さ 自然愛護 感動、畏敬の念 よりよく生きる喜び		

4. 考察

「手引」の「学習障害のある子供に対する特別な指導内容」、「注意欠陥多動性障害のある子供に対する特別な指導内容」、「自閉症のある子供に対する特別な指導内容」に記述されているLD児、ADHD児、ASD児の特性及び指導内容と道徳科の内容項目を関連したところ、いずれの障害においても道徳科の内容項目との関わりが一定認められた。

「教育支援資料」と道徳科の内容項目を関連した青木ら（2020）の研究と比較すると、「教育支援資料」との関連でLD児、ADHD児、ASD児の全てで関わりが見られた「個性の伸長」は、「手引」においてもLD児、ADHD児、ASD児の全ての特的な指導内容で記述が見られた。障害別に見ると、LD児は「希望と勇氣、努力と強い意志」、「よりよい学校生活、集団生活の充実」の項目について「手引」で新たに関わりが見られた。「手引」では、自分自身に関することのみでなく、社会や集団との関わりに関することについても道徳科の内容項目との関わりが見られたことから、集団の中でよりよく過ごすことに

について考えるなど道徳科での指導の内容等を工夫していく必要がある。ADHD 児については、「節度、節制」「親切、思いやり」、「規則の尊重」の内容項目で「教育支援資料」の結果と重なりが見られ、新たな内容項目は認められなかった。今後も道徳科において、ロールプレイや役割演技等指導方法を工夫しながら対人関係に関して考えていくことが求められる。ASD 児については、「個性の伸長」、「親切、思いやり」、「相互理解、寛容」で「教育支援資料」の結果と重なりが見られ、「節度、節制」については、「手引」で新たに関わりが認められた。「手引」では他者の意図や感情の理解に困難がある児童であっても通常の学級での指導を検討するとされているため、道徳科において他者との関わりについて考えることは ASD 児にとって重要な時間と言えよう。

最後に、今後重要となる道徳科における特別支援教育の視点を 3 つまとめる。1 点目は、通級による指導や自立活動との学びの連続性についてである。インクルーシブ教育システム・共生社会実現のために教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる多様で柔軟な仕組みである「連続性のある多様な学びの場」を整備することが求められている（奥住，2021）。通級による指導や自立活動の時間などで獲得した対人関係に関する技能等を道徳科で生かすような指導を心掛け、学びの連続性を担保していく必要がある。2 点目は、道徳科における外部人材との連携についてである。通常の学級には、発達障害児をはじめ特別な教育的ニーズのある児童が在籍している。また、道徳科の教材には障害を扱ったものもあり、指導内容や指導方法の工夫が求められる（青木・田中・大井・奥住・小林，2021；青木・田中・奥住・大井，2021）。そのような際に、授業担当教員のみならず、通級による指導担当教員、特別支援学校のセンター的機能、スクールカウンセラーなどの外部人材と連携することは必要であろう（青木，2021）。3 点目は、発達障害児であっても児童同士の協働的な学びを促進できるよう支援を行うことである。青木・田中（2021）は、道徳科においてではないが、発達障害児が対話的活動の中で協働的な学びを展開することの有用性を報告している。また道徳科では、児童が他者と対話したり協働したりしながら物事を多面的・多角的に考えることが重要視されているため、道徳科においても田中（2021）の指摘するように、障害の有無に関わらず、児童同士が協働的な学びを促進できるよう支援の内容や方法を調整していくことが必要である。

引用文献

- 青木利樹（2021）小学校の道徳科における連携・協働の重要性と特別支援教育．教育支援協働学研究，3，126-127．
- 青木利樹・田中亮（2021）発達障害児の余暇活動における学び合いの実践．未来を拓く教育実践学研究，5，85-91．
- 青木利樹・田中亮・奥住秀之（2021）小学校「特別の教科 道徳」における発達障害児及びその傾向のある児童への指導上の工夫・配慮．東京学芸大学紀要．総合教育科学系，72，217-224．
- 青木利樹・田中亮・奥住秀之・大井雄平（2020）小学校「特別の教科道徳」における LD 等発達障害児の特性・困難と配慮・支援－「教育支援資料」と小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」との関連－．教育研究実践報告誌，4（1），19-26．

- 青木利樹・田中亮・奥住秀之・大井雄平（2021）小学校・中学校における「特別の教科 道徳」の教材としての障害一障害と内容項目の関連に着目して一．教育研究実践報告誌，4（2），19-26.
- 青木利樹・田中亮・大井雄平・奥住秀之・小林巖（2021）小学校「特別の教科 道徳」における病気の児童への指導の成果と課題一心理的な支援を視野に入れて一．東京学芸大学教育実践研究，17. 17-23.
- 文部科学省（2012）通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について（概要）.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf（最終閲覧 2021 年 8 月 16 日）.
- 文部科学省（2016）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）.
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf（最終閲覧 2021 年 8 月 16 日）.
- 文部科学省（2017）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）.
- 文部科学省（2018a）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編.
- 文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別の教科 道徳編.
- 文部科学省（2021）障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm（最終閲覧 2021 年 8 月 16 日）.
- 奥住秀之（2021）特別支援教育の多様な学びの場とその連続性．柏崎秀子（編）通常学級で活かす特別支援教育概論 ナカニシヤ出版，17-31.
- 田中亮（2021）通常学級で共に学ぶ支援．柏崎秀子（編）通常学級で活かす特別支援教育概論 ナカニシヤ出版，73-86.
- 吉田ゆり・友永光幸・高橋甲介・石川衣紀・鈴木保巳（2020）発達障害の可能性のある児童の教科「道徳」における教育実践一内容の読み取りに焦点化した支援事例一．長崎大学教育学部教育実践研究紀要，19，101-111.